

# 見樹院ニュース

O T E R A W S

第54号 2011年4月18日発行

浄土宗 見樹院  
住職 大河内秀人

〒112-0002

東京都文京区小石川3-4-14

TEL 03(3812)3711

FAX 03(3815)7951

Eメール: [kenjuin@nam-mind.jp](mailto:kenjuin@nam-mind.jp)

[Http://www.nam-mind.jp](http://www.nam-mind.jp)

## ご報告とご案内

未曾有の大災害で混乱が続くなかにも、桜色から緑が濃くなる季節になりました。

ご家族、ご関係の皆さまはご無事でいらしたでしょうか。犠牲になられました方々のご冥福と、被災されました方々の一日も早いご回復を心よりお祈り申し上げます。

見樹院としましては、建物、墓地、人身共、地震による直接の被害はほとんどありませんでした。しかしながら、余震が続き、電力供給や交通の混乱など不安定な社会状況のなかで、今後の行事や日常活動についても、当分の間、不確定要素を含んだ予定を前提に行っていくこととなります。

つきましては以下の通り、ご報告とご案内を申し上げます。

### ■宗祖法然上人800年大遠忌行事について

この度の大震災を受けて、総・大本山をはじめ浄土宗一門では、予定されておりました大遠忌の行事を、1年延期することになりました。見樹院としましても、大きな転機の時になり、来年度に向けてあらためて記念行事を企画して行きたいと思えます。

### ■落慶式について

宗内及び近辺でも、落慶をはじめとするお祝い事を自粛、延期している寺院が見受けられ、余震等の不安の残るこの時期にあって、中止、延期を検討致しましたが、建設に関わられました方々へ感謝の意を顕し、また、施餓鬼会前に一つの区切りをつけたいということで、工事関係者と傳通院山内、役員等を中心とした簡素な式典とさせていただきます。

本来誰より檀信徒の皆さまに、ご参列・ご焼香いただきたく存じますが、スペースの問題もあり、特におもてなしもできないご無礼をお許し下さい。また、諸事に亘り遅れが出ており、6月末の施餓鬼会には、墓地の整備と皆さまへの記念品のお数珠も間に合わせるべく、進めております。このような状況で恐縮ですが、準備の都合上、折り返し出欠のご連絡をお願い申し上げます。

### 見樹院本堂・伽藍落慶式

日時：5月7日（土）

午後2時 受付開始

2時半 経過報告

3時 落慶法要・式典

4時半 閉式予定

## ■施餓鬼会について

例年通り6月最終日曜、**6月26日(日)**に厳修します。あらためてご案内申し上げますが、総代の名取亮さんのお世話により、当日は「講談」をお楽しみいただきます。そのため時間が12時～見樹会総会、12時半～法要、13時半過ぎ～講談、という段取りになる予定です。見樹会の会費や制度に関しては、それまでにご提案できると思います。

## ■震災及び関連活動について

震災に関連して、私及び見樹院としての取り組みをご報告申し上げます。

ご承知の通り、私は以前から原子力をはじめとするエネルギー問題に取り組んでおり、数年前からは「原子力行政を問い直す宗教者の会」の世話人として事務局の一端を担っております。原発や核施設のある地域を中心に全国の僧侶、牧師、神父、信徒などが、それぞれの信仰を基本に生命尊重の願いを共有し、被曝労働者や不安を抱える周辺住民などに寄り添いつつ、学習し、提言活動などを行ってきました。

まず福島原発の事故の第一報直後から、在京の牧師さんたちと相談して、核事故への対応力を持つ米軍への協力要請を促す申入れを首相や閣僚宛に送りました。

次に、子どもや妊婦が安全な距離に避難することを最優先とし、西日本や北海道の「宗教者の会」の関係者に受入れの呼びかけを行い、井生上人のサポートで取りまとめを行っています。また、前述の通り、浄土宗では大遠忌を延期したため、3月～4月に予定されていた本山行事がなくなったことを受け、宗議会副議長でもある見樹院責任役員の野上上人に口添えをしてもらい、大本山での被災者・避難者の受入れを依頼し、関西の支援活動団体の協力要請のため京都・大阪で調整を行いました。(彼岸入りに不在になり申し訳ありませんでした。) その後も「宗教者の会」を中心に、各宗教団体や市民団体と連携して、支援体制の強化をめざしています。

また、4月に入る頃、東京都の瑞江葬儀所で、宗教を排除して震災犠牲者の火葬が行われると知り、宗教者の立会をすべきとの思いで、宗教宗派を超えた宗教者・団体との調整を行いました。

他に私が役員をつとめる団体でも、それぞれ支援活動を行っています。

◇パレスチナ子どものキャンペーン：紛争のトラウマを抱えた子どものケアの経験と人脈を生かして、岩手県大槌町で子ども支援活動を行っている。

◇日本国際ボランティアセンター：自然農法や村落開発の専門家と共に、被災した農民への支援などの活動を始めた。

その他、子ども関係の団体で孤児や親と離れることになった子どもの権利擁護の枠組み作りなど、現地支援や義援金に限らず、多様な復興・支援活動を行っています。

見樹院に関係するところでは、安全で長寿命の無垢材を供給する栗駒木材が、会社を挙げて三陸方面への支援を行ってきましたが、これから「天然住宅」と共同で、「仮設」ではなく将来ずっと住み続けられるよう拡大できる住宅を、地元の木材と業者を使って建てていく社会事業を開始します。これは、無一文になった人でも入手可能な仕組みを考え、さらにはエネルギーの自給自足も視野に入れて進めています。自らも被災者である、この事業の現地コーディネーターは、見樹院をベースに東京での調整活動を行っています。

この復興事業は、エネルギー問題や経済問題からも決して対岸の火事ではなく、長期にわたり私たちのあり方を根本的に再考し、組み直していくべき取り組みです。このようなときに見樹院が新しいスタートを切ることになったのも、阿弥陀如来の“はからい”であり、底なしの困難から希望を導き出すのが「法然門下」の真価を発揮する時です。頑張りましょう。